

# TOP INTERVIEW

理事長インタビュー

## 地元のお客さまからの信頼に真摯に応え、地域金融機関としての使命を果たします。

地元の中小零細企業に寄り添い、本業特化のシンプルな経営を愚直に続けている広島市信用組合。その堅実な経営方針と将来の展望について、山本理事長にうかがいました。



### 本来業務に徹し、地元貢献する。

#### ◆ 地元経済もようやく回復の兆しが見えてきたようですね。

長く続いたコロナ禍から日常が戻りつつあるなか、個人消費も活発化し、日本経済は緩やかながらも回復の兆しが見えてきました。一方、世界経済は、長期化するウクライナ危機に加え、欧米諸国の金融引き締めなどにより依然として不安定な状況が続き、その影響で物価高、原材料費の高騰に歯止めがかからず、多くの事業者が仕入れ価格の上昇で苦しい経営を余儀なくされています。また、コロナ禍の際に従業員の離職が相次ぎ、人手不足に直面している企業も少なくありません。こうした地元の中小零細企業に寄り添い、資金ニーズに応じていくことが当組合の使命であり、今こそ地域金融機関の存在意義を発揮する時だと考えます。今後地元広島では、新サッカースタジアムや中央公園広場エリアでの施設開業のほか、広島駅南口の再整備などさらに活気あふれる街へと進化していきます。これからも地元の活性化に当組合は一層貢献していきます。

#### ◆ そうした中、20期連続の増収となるなど業績が好調のようですね。

おかげさまで、当組合は令和5年度上半期決算において、経常収益は20期連続の増収で過去最高となり、経常利益、当期純利益も過去最高を更新しました。こうした業績を維持できるのは、「預金」「融資」という本来業務に徹したシンプルな経営を継続しているからです。また、当組合はバルクセル（不良債権の一括売却）を積極的に進めるなど、資産のさらなる良化をはかっています。この業績は、平成19年2月から毎年取得している株式会社日本格付研究所（JCR）の長期発行体格付にも表れており、この5月に「A」（シングルAフラット）から「A+」（シングルAプラス）に引き上げとなりました。外部からの高評価を糧に、今後も一層本業に磨きをかけていきます。

## 泥臭い営業スタイルで、現場主義を徹底。

### ◆ 本業の中でも特に重視している業務は何ですか？

融資です。原材料費の高騰などの影響で思うような経営ができていない中小零細企業が多く、そうしたお客さまの資金ニーズに応えるのが、地域金融機関の使命であると考えています。もちろん、融資にはリスクはつきものですが、お客さまが苦しい時こそリスクテイクし、手を差し伸べることが大切です。お客さまと正面から向き合う覚悟がなくては、真のパートナーとして認めていただけません。常にお客さまの目線に立ち、今何を必要としておられるかを的確に理解し、すばやく対応していくことが重要だと考えます。

### ◆ お客さまの目線に立った対応をする上で大切にしていることは？

とにかく現場を歩いて、歩いて、歩き抜くことです。お客さまと真の信頼関係を築くためには、お客さまのことを知らなくてはなりません。その要となるのが、「フットワーク」と「フェイス・トゥ・フェイス」です。足繁く通い、常日頃から顔を合わせておくことで、お客さまの小さな変化にも気づくことができます。昨今、感染防止への配慮からリモート面談等が推進されていますが、生の声ほど有益な情報はありません。当組合のような泥臭い営業は、一見時代と逆行しているように思われますが、この現場主義こそ最大の持ち味であり、他の金融機関では真似できないスタイルであると確信しています。

## どんな時もコンプライアンスを基本に、正々堂々と。

### ◆ 職員目線に配慮した取り組みもされているそうですね。

当組合では、給与の見直しをはじめ、待遇面の改善を継続して進めています。女性職員の登用にも力を注いでおり、課長職、代理職および係長職を積極的に配置。産休・育休を取得した女性職員のほとんどは復職しています。また、令和4年10月から令和5年3月の期間で職員に対し、業務効率化の提案を募集しました。これは、今後の業容拡大を見据えてデジタル化や業務の効率化をはかることを目的に、職員から現場の意見を広く募集しようと制度化したもので、実務に活かされた提案も数多くあります。これからも職員目線を大切に、より働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきます。

### ◆ コンプライアンスも徹底されているそうですね。

コンプライアンスはすべての基本です。お客さまの命の次に大切なお金と、これに関わる情報を扱う金融機関の職員にとって、コンプライアンスを軽んじることがあってはなりません。信頼を積み重ねていくことは大変ですが、失うのは一瞬です。たったひとつのコンプライアンス違反で組織の屋台骨が大きく揺らぎます。先述したバルクセールを積極的に進められるのも、お客さまとの強固な信頼関係があってこそ。一切のトラブルがないのは、誠実な対応を貫いているからだと考えます。今後もこれまで以上に役職員一人ひとりが襟を正し、どのような場面においても正々堂々取り組んでいきます。



「真心」の像

## ◆海田支店が盛大な新築移転オープンを迎えましたね。

おかげさまで令和5年7月10日(月)、海田支店が新築移転オープンし、当日は多くのお客さまにご来店いただきました。コロナ感染予防に細心の注意を払い、ローラー活動を地道に展開したことで、新しいお客さまとの取引も広げることができました。現在、11月6日(月)の新築移転オープンに向け着々と準備を進めている五日市支店をはじめ、来年以降も府中支店、薬研堀支店、鷹の橋支店、南支店、古江支店の移転を計画しています。また、オープン1周年を迎えた己斐支店、まもなく周年を迎える駅前支店、広支店もオープン時の勢いを持続し着実に業績を伸ばしています。今後も開店、周年運動を新規開拓とともに、お客さまとの信頼関係をより深める好機ととらえ、多くのお客さまに喜んでいただけるよう利便性向上に努めます。また、移転オープンに向けたローラー活動は、人材育成の一環にもなっています。お客さま訪問は営業の基本。現場で得られる経験に勝るものはありません。支店長をはじめ各職員がこれまで培ったノウハウを部下や後輩に伝えていきながら、現場主義の営業活動を継承していくことが大切です。そのためには、平日頃から気配りとコミュニケーションを心がけ、連携をより一層積極的に図っていく必要があると考えます。当組合がこれからも地域のお客さまにとってなくてはならない存在となるために、若手職員を中心とした人材育成に力を入れていきます。



新五日市支店の外観



ローラー活動

## 継続なしで未来なし。着実な歩みが、信頼を生む。

### ◆今後の目標を教えてください。

当組合は、本業特化の現場主義経営を一貫して継続し、経営基盤の拡充を進めてきました。長く続いたコロナ禍をはじめ金融機関にとって厳しい状況が続くなか、当組合が成長し続けているのは、投資信託や生命保険などのフィービジネスには目もくれず、預金と貸出金の本来業務を貫き、足を使った営業を愚直に行ってきたからです。当組合の職員ほど地元の中小零細企業に顔を出している金融機関はないと考えます。そうした着実な歩みがお客さまの安心につながり、活性化を生み出しています。このビジネススタイルは、これからも変わることはありません。今年のスローガンは、「継続なしで未来なし」。これまでの地道な営業活動を継続し、お客さまとの信頼をコツコツと築いていくことで、明るい未来も拓けてくると考えます。目標としている預金、貸出金残高1兆円も視野に入ってきました。これからも、お客さまとともに成長を続け、地域の発展に貢献できるよう、役職員一丸となって一步一步着実に歩んでまいります。



新府中支店の完成予想図

# 〈 格付「A+」に引き上げ 〉

当組合は、令和5年5月に格付機関である株式会社日本格付研究所(JCR)から長期発行体格付を継続取得し、「A」(シングルAフラット)から1つ上の「A+」(シングルAプラス)に引き上げとなりました。

## 1 格付機関

株式会社日本格付研究所(JCR)

## 2 格付対象

長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

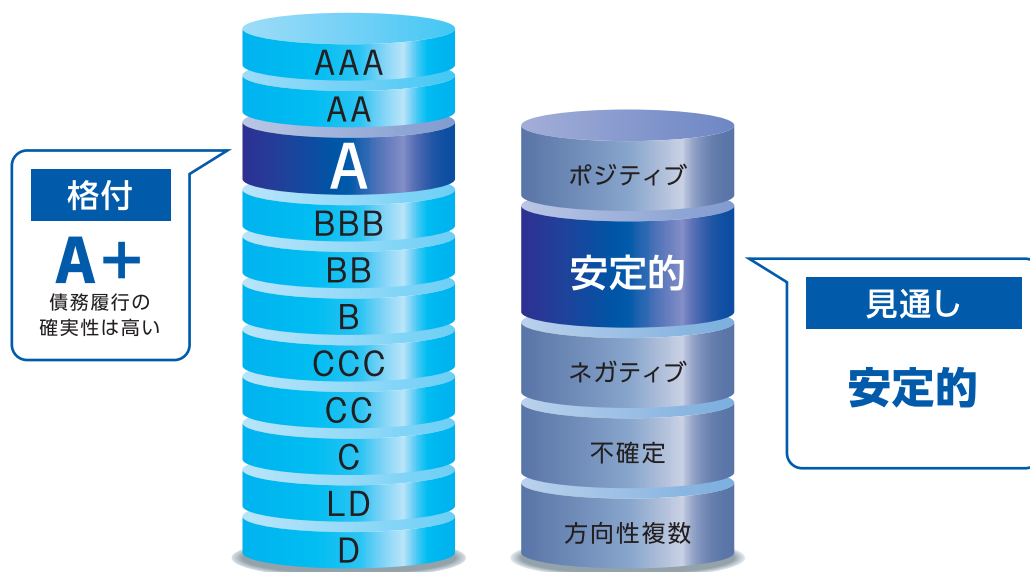
## 3 格付

A+(シングルAプラス) 見通し「安定的」

※A(シングルA)は、株式会社日本格付研究所の11段階の格付等級の上から3番目にあたります。  
※格付の見通しは、長期発行体格付が1~2年の間にどの方向に動き得るかを5つに区分して示すものです。

## 4 取得の目的

外部からの客観的な評価である格付を取得し、お客さまや組合員の皆さまにディスクロースすることで、透明性をもった経営を進め、財務内容の健全性をより理解していただき、信頼性を高めることを目的としています。



## 参考:JCR長期発行体格付の定義

AAA	債務履行の確実性が最も高い。	CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。	CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
A	債務履行の確実性は高い。	C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。	LD	一部の債務について約定どおりの債務履行を行っていないが、その他の債務については約定どおりの債務履行を行っているとしてJCRが判断している。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。	D	実質的にすべての金融債務が債務不履行に陥っているとJCRが判断している。
B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。		

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、+(プラス)もしくは-(マイナス)の符号による区分があります。